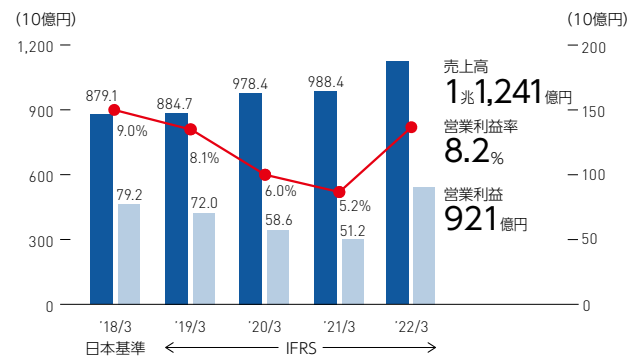


財務・非財務ハイライト

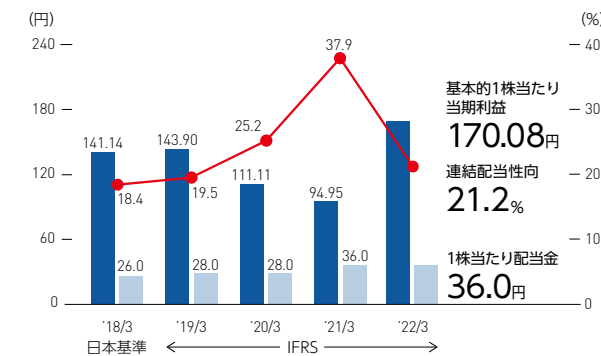
財務ハイライト

売上高、営業利益、営業利益率



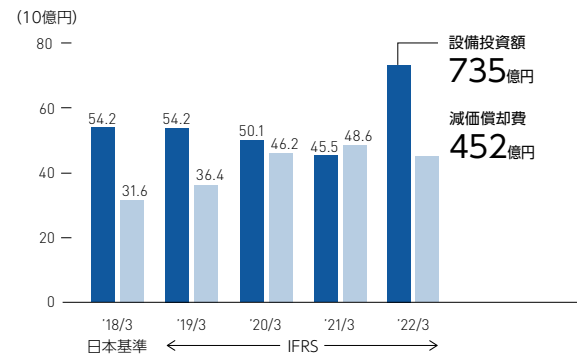
収益力のさらなる向上を実現するために、徹底したコスト削減、高付加価値製品と新技術の開発および拡販活動に注力した結果、売上高および営業利益は過去最高を更新しました。売上高については、2014年3月期以降、9年連続で過去最高を更新しています。

EPS および配当額



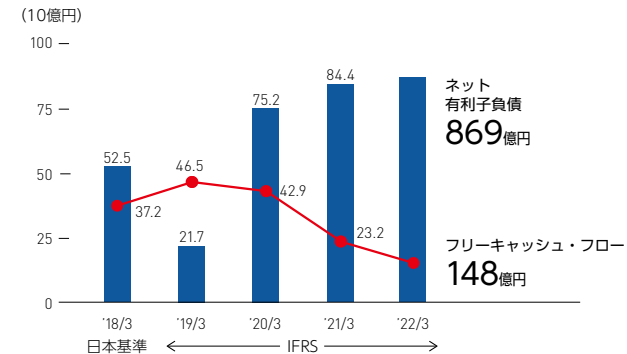
業績をより反映した水準での利益還元をはかった結果、2022年3月期の配当は1株当たり36円としました。このうち期末配当金については、記念配当金8円を除いた前期実績14円から4円増配の1株当たり18円となります。

設備投資額、減価償却費



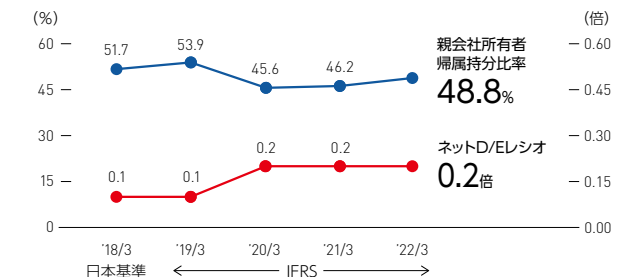
設備投資額は機械加工品およびミツミ事業の増強投資を中心に実施しました。
* 2022年3月期の設備投資額には、新東京本ビル（ミネベアミツミ 東京クロスステックガーデン）取得費用の一部が含まれています。

ネット有利子負債、フリーキャッシュ・フロー



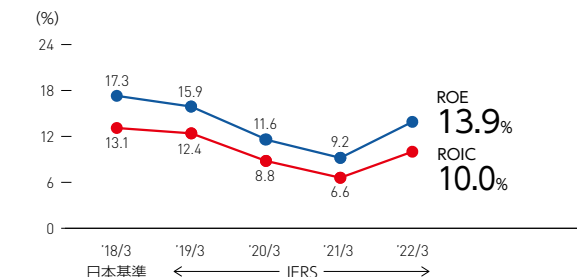
高い水準でのフリーキャッシュ・フロー創出を維持した一方で、運転資金の増加および自己株式の取得等によりネット有利子負債は増加しました。

親会社所有者帰属持分比率、ネット D/E レシオ



親会社所有者帰属持分比率は前期比で改善、ネット D/E レシオも前期と同水準となり、財務規律を維持しています。

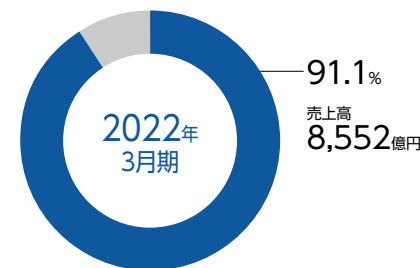
ROE、ROIC



ROE、ROICとも収益力の回復により前期比で大幅に改善し、新型コロナウイルス感染拡大前の水準に近づいています。

非財務ハイライト

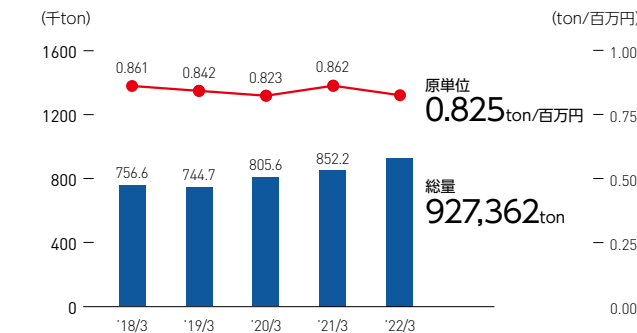
グリーンプロダクツ売上高比率



2022年3月期のグリーンプロダクツの売上高は8,552億円で、全売上高（自社で設計ができない製品を除く）の91.1%でした。

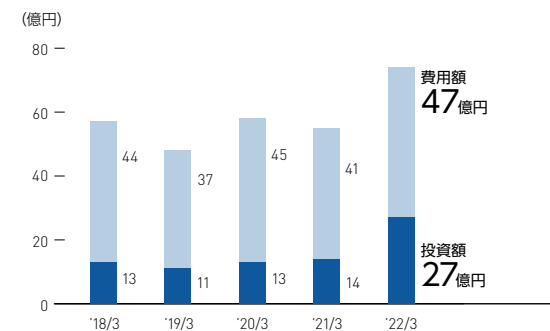
[グリーンプロダクツ](#) [P.60](#)

温室効果ガスの CO₂ 換算排出量



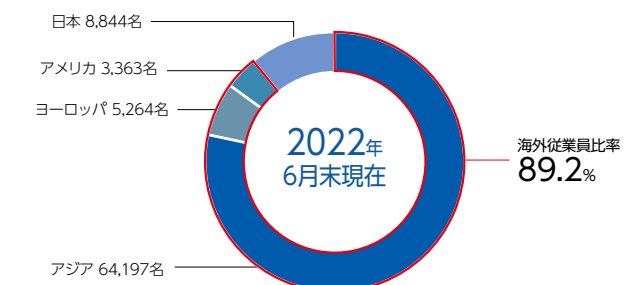
温室効果ガスは気候変動問題の要因とされていることから、総排出量と、売上高原単位をとらえています。2022年3月期は前期に比べ、総量で8.8%増加、売上高原単位で4.3%減少となりました。

環境保全コスト



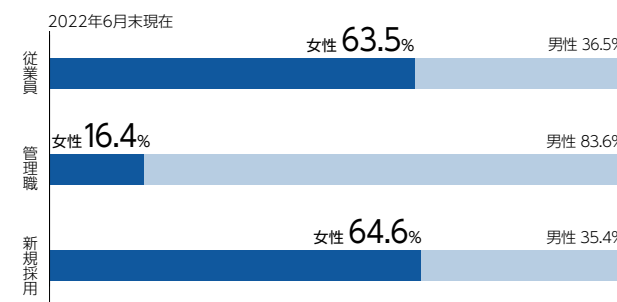
環境省の発行する「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、投資額、費用額の集計をおこなっています。2022年3月期の投資額、費用額を合わせた環境保全コストは74億円となりました。

地域別従業員数



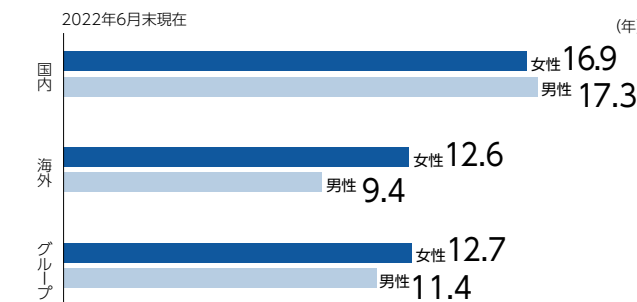
海外売上高・生産高比率がそれぞれ7割、9割近い数値のため、海外従業員比率は89.2%と高い数値となっています。

女性比率（従業員、管理職、新規採用）



多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境づくりによって、新たな価値観や競争力の創出を目指し、女性活躍を推進しています。2022年6月末の女性従業員比率は63.5%、管理職比率は16.4%となりました。

男女別平均勤続年数



男女間で大きな差はなく、グループ全体では女性の勤続年数が長いことから、引き続き育児休業後に就業継続できる職場環境づくりに取り組んでいきます。